



「うまくいく」・・・「馬が9頭行く」で「馬9行く」→「上手いく」。縁起の良い水墨画です(2007年作)

「動物を描く時は特に眼の表現が重要で、眼に表情がないと他がどれだけ上手でも作品にならない」とその難しさや奥深さ、そして繊細さがあるそう。

北見へ3年間通い、練習を積み重ねてこられました。これまで多くの作品、そして長年続けられた書道と水墨画のコラボ作品も生み出しており、「黒でも色の薄い黒と濃い黒、そして白を活かして表現するところに、水墨画の魅力を感じる」と話します。

横公さんは、水墨画を始めと頃は、黒の濃淡や筆の使い分けをしながら描くことで、自然や人物などが表現されます。

魅力 水墨画の歴史と

し訳ないと思い、ぜひとも描き上げたいという熱意を持って夢中になつて描き上げ、完成した時は、ようくここまで描けたなという満足感でいっぱいになりました」。

2026年は「丙午」(ひのえ・うま)。馬は「走りぬく」「力強い」「勝利を目指す」といった良い意味で使われることが多い動物です。「馬車馬のように」という言葉がありますが、これは長時間の無理な労働・作業を表す言葉ではなく、寝食を忘れて物事に打ち込む様子を表した言葉です。

今月号の表紙は新年の幕開けにふさわし
「馬」をテーマに、水墨画で「馬」を表現した横松作
之さんと早川綾子さんにお話を聞きました。

新しい年に 願いを込めて

うまくいく、2026年

横松 伊之 さん

早川 綾子 さん

松伊之さんの書道教室に編入。現在、稻美簡易郵便局局長として勤務しながら、横松さんの後を継ぐ形で令和4年から明和大学書道クラブ講師に。また昨年5月に自宅近くに書道教室を開き、町民に書道の魅力を伝えている。

退官後は平成21年から明和大学書道クラブ講師として長年にわたり学生へ指導。町文化祭への出展を始め、町内施設及び北見市パラボで書と水墨画の個展を開く。これまでに多くの作品を生み出し、観る方々を魅了している。雅号は静岳。

干支がテーマの 水墨画

横松さんは水墨画を描き始めて28年。ご自身が寅年生まれで、トランプの水墨画を描いたことがきっかけで、馬を題材とした水墨画を描き始め、前回の午年（2014年）に今回ご紹介いただいた馬の水墨画を描き上げました。

「元となる絵は、道内で水墨画を描いていた露山（畠中清喜）さんの

きに約1週間かけて、納得がいくまで描き続けた』そうです。

下絵は納得がいくところまで、でも本番は「発勝負で臨んだ横松さん」「馬の表情、眼を表現するのに苦労した」と話されるその絵は、今にも目の前に迫つてきそうな迫力があります。

「絵を描く前は有名な方の絵ということもあります、不安や迷い、そして描く前は大変緊張しました。しかし、せつかく決意したのに、ここ

「送言」(2014年4月)



「本物」をぜひご覧ください

今回ご紹介した水墨画と、左の掛け軸が稻美簡易郵便局で展示されます。特に「うまくいく」は、この度初めてのお披露目となりますので、ぜひご覧いただき、本物の迫力に触れてください。

「謹賀新年」展示期間 1月5日(日)～15日(木)

「道産子」「うまくいく」展示期間 1月5日(月)

他の作品と入れ替わる時



町HPでカラー
公開しています